

いたわしさ、敬愛の真心こそ起れ、そむく心は起るものでありません。私は教育家に最も大切な目は此の目だと思ふ。悪少年のひねくれた、真から曲つた根生でさへ正しい方に戻されるのは、此の目の力であります。頑な、強情無法な不良兒の心さへ、次第に優しく溶けて来るのは此の目の力であります。聞きわけない、無心な白痴兒の心にさへ教師の誠心の通ずるのは此の目の力であります。

まだ、此他詳しく考へればいろ／＼の目が澤山ありましようが、兎に角私共はい、目を持ち度ひと思ひます。清い濁らざる優しい美しい目を持ち度ひと思ひます。併しそれはお化粧では出来ない。お白粉の塗り方や紅のさし方では、目の外側の拵へは假りに出来ても、目の内側の改良は出来ない。目は心の目である。最も正直に我々の心を外へあらはして居るものであります。くだらぬことを大層長くお話して皆さんの目がた、る、んで來るといけませんから、今日は之れでやめることに致します。

講話

女子大學教授 井上 秀子

私は只今先生より御紹介の井上と云ふもので御座います今日は宮川先生より何か参考になる話をとの事で早速參ると御返答を申しましたが歸朝後尙日も淺く研究する閑もなく、あちらで研究した

事を尙研究してお話したならば皆様の御參考にもなりませうがまだ其處までには参りませんので只あちらで見聞した所の所感のみをお話しようと思つて存じます。私が主に時を費しましたのは米國のコーンビヤの大學であります、それから歸路に歐州に廻て英佛獨の諸學校の家政學に就て見ましたが家政學の最も發達したるは米國だと考へます、何故彼の國の家政學が一番發達して居るかと云へばあちらでは最高の學府にて研究されて居るからであつて日本とは異て男女が共に一の大學に入て所謂混合教育が行はれ居ります、其中に家政學が置かれてあるが尤其は女子の爲であつて男子はあづかりません、此最高學府を卒業すれば日本で云ふ學士の稱號が與へられます、丁度私があちらに居りました頃には學士の稱號を與へるに止て居りましたが其後諸般の設備が整つて家政學に關する濫奥を極める事が出來博士の稱號を與へ得る事となりました、此はコーンビヤ大學の家政學の進歩であります、尙此外調べる事があつて其後暫くシカゴ大學に居りました、此處は有名なる學校で生徒は五六千もあつて新しき説をとつて世界に有名なる學者が教授となり最新派なるものであります、此處は博士の稱號は與へないが學士號は與へられます、此等は二者共に私立ではあります外にある多くの大學中最有名なるものでありまして東方よりも西方には洲立が多くあつて皆悉く家政學を課してあります、尙西方では大學の農科と大に關係をもつて是を研究して居ります、兎に角家政學の研究は近頃大に進歩して來て其研究の様子は大學では通常多

くの部門に分れて我國に於けるが如く衣食住看護等を一の統一したる學科として教へるのではなく分業になつて居ります即家庭科學、家庭美術等がある、其等は更に細に分れて家庭家族結婚、家族の變遷、生活の標準等を社會學的に研究して居るが通例は三として居る家庭科學と云ふは料理衣食住に關する科學にして家庭經濟及び看護家屋の構造衛生等を科學的にする家政である家庭美術とは裁縫美術人生活と美術との關係其他衣服の色の取合せ家内裝飾等、畫の方に入つては衣服の模様及形狀圖案法其他染色一つ一つの學科が三の問題の下に此の順序によつて分れて居る又各科には立派なる教授があつて科學的に之を研究し教へて居る例は食と熱との關係蛋白質の變化等料理について化學上より研究し又經濟的よりして居る、尙家庭科學の中にて植物生産に人工を加へて人工的食物として食べますそれゆゑパンの如き今日あるものは如何にして出來たるかの道筋を科學上の智識を以て研究するなど皆家庭科學の中に入るものとします、是等は皆博士によりて導かれ食物料理家庭經濟等の問題が博士の手によりて一々解かれる、家庭美術も隨分其内に多くの教授を聘して一つ一つ問題を受けて研究をとげて行きます、斯大學に於ける家政學は分業的であつて然も理論のみならずして實際につきても深く立入れるものである、例は買物等にも大學生にして教授に従ひ市中に行て其購方を授けられる且學校に於て料理せるものは時々品評會を催し又客を迎へるなどつまり實際的方面に於ても大に生徒を訓練しつゝあります、是より考ふる

時は彼方での家政學は學理的實際的を兼たものと云ふべきであります、尙大學の中には師範部あつて私の居つたのも其師範部であります、此處にては教授法教育學に家政を連絡して中等教員初等教員として必要な教授法を研究して居ります、所謂家政學教授につきまして一時間位の僅の時を用て例ば含水炭素蛋白質を生徒に教へるにしても小學中學夫々に最適に生徒の腦に入れる様に研究して居る此最高學府の研究をなしたる人は女學校や小學校の先生に迎へられるのであります、其等の人々の教へ方を見るに餘程よく其効果を修めて居ります、小學校女學校の家事教授の巧なる所以は其教授法がよく研究されて居る爲であつて其一端を申せば料理洗濯裁縫及帽子をかざるなどの事は小學校にては四年或は學校により既に二年三年より之を課し女學校は最初より之を課して居ります、例ば洗濯場にては實際の洗濯は勿論衛生上の智識衣服の纖維染色等の學理を實驗しつゝ頭に入れる様にし又料理教室に入れば料理術を教へつゝ總ての食物に關する智識を得しめるなど總て學理と實際とを結びつけてある、かるが故に小學校生徒に於てすら其理論は理解せらるゝのであります、其他小學大學に至るまで殊に力を入れるのは經濟であつて之を料理する時は其價を知り其分量を一目で知つて又其物の身体中に入つての分量等を教へこむが故に其物を一見すれば直に價分量分量即ち身体中にての價を知らるゝ様に教へられてある。

されば學理的實際的である上に尙研究的である。

扱て米國の家政學の歴史を省ればあまり古くはない、即此の學の起りたては二十年程前の事であらう。以前には裁縫料理なども今日の如く學理的に研究したのではなくて只我が寺子屋に類するものに過なかつた、そこでどうしても米國に家政學を施さなければならぬと二三の婦人によつて盛にならへられ社會の學論は此處に盛になつたこれは何故かと云ふに此頃は機械工業は盛になつて來たため昔は一家内にて糸をつむぎ機を織り着物として家族のものに與へ又食物の如きも一人にて米を作りパンを作て一家人に供せしなど皆一家庭内で一式を調たものであるが文明の進歩に従ひ社會組織は發達して食物衣服の材料は社會分業によつて供給され所謂家族のものは金さへもつて行けば力を要せず思ふまゝに買ひ調へられると云ふ便利がある、如斯社會の進歩が家庭工業を衰頽せしめる様になつた實際今日では家の掃除は家族の者が手を下さずとも窓からゴム管を入れて家の内を電毒仕掛にてこれをなし又ニウヨークの如きでは一家を所有するものは殆少くて其同生活で大抵二三十の家族が共に住つて居る、其れ故例ば取次ぎの如きも一人あれば能く總ての家族の用をたすことが出来る室内煖爐の如きも矢張中央に暖房法行はれて全部に及ぶ、如斯き生活は歐米に流行して居る、右の様でありますから家庭ですることは漸次なくなる其結果主婦の力を減するに至る茲に至て欠點を見る様になりました即今迄家庭に於て母親が其娘に裁縫料理等を自然に教へて居つたが現今に於ては社會狀態一變して家庭に於て之を教ふる機會がなくなつた故

に學校教育に之を加ふる必要を生じ來つたのであります、もう一つは米國に於ては所謂男女混合教育であつて小學から大學に至るまで男女同一の室にて同一の教育を受けるが故に其結果男女餘りに同じくなり過ぎた即家事に關することは全く學ばずして學問ばかりなした爲に家庭に入る時は家政に關して無學であつて爲に婦人の天職を全うすることが出来ぬ様な結果を來すに至りました、其れ故に女子には家政をどうしても教へなければならぬと云ふ事になつて今日の如く著しく進歩し研究せらるゝに至つたのであります、其他米國の人民は一般に向上心が高くあるが故に一家の富、國の富をより以上増したいと云ふことは常に思ふてやまないものでありますから一家の經濟なども最少力を以て最大最高の結果を得んと力を盡すが故にかく自然に發達をなすに至つたのであります、かくして米國全体の家庭生活を高め且健全になりたいたと云ふ風で學者も學生も政府も人民も共に茲に力をつくしてオートリテと云ふが如き立派な効果を與へた其他總ての方面に家政學を研究すると云ふ處からして今日にては非常に發達して來たのであります、あちらから參ります雜誌によつて見れば家政學は公にも私にも益々盛になつて來ましたのを見ますれば此先何處まで米國の家政學が進歩し何處まで研究せらるゝものなるかはかられません。

かく米國の家政學は社會の要求の結果であると云ふと同時に我國に於ても大に之を發達せしめなければならぬけれども其方法は問題である、兎に角他の科學は日米共に異なるべからざる眞理に

よるとも家政學に至ては其國其國に従て其要求を異にするものでありますから其國に相應した家政學を研究せねばなりません、即日本國民は我が足らざるところを補つて國情に適したる研究をして益々我家庭をすゝめ我國を發展しなければならぬ、其點よりすれば現今我國の家政學は未だ發達の位置に達して居らない同じく一等國の一ながら富みの點よりまた身体の點よりしても彼等と並で行くことが出来ない。

千八百九十九年の調によれば婦人が衣服の爲に費すところは一年間に百億弗であるといふが今日では尙進んで居る様であります然に一人として之を有功に消費せらるることを研究するものがないと云ふので之を嘆きて種々の書物を表し其事を發表したる者さへあります、之と同じく我國に於ても女子の手によつて浪費せらるる金銭の高は非常なものであらうと思ひます、故に尙之を有功に費さんことを考へ衣服食物住居等を健康に適して然も經濟的にする様に研究せねばなりません、我國に於ても此責任のあるのは女子の外にはありません男子にはこの様に些細なることは出来ませんから婦人は消費せらるる金銭が大なる効果を來す様にとめなければならぬと云ふことを感ずるのであります、其研究が將來の女子の中に責任のある事は我教育にあづかるものゝ力にまたねばなりません、どうか其方面に一つ力をつくして貰つて別れ別れにならないで力一つにして何處の學校出などと云ふ事を置いて共同一致其方面に研究を充分にし充分に發達せしめた

いと思ふのであります。

味噌につきて

技藝科一年

白井

よしの

味噌は古來日本支那及び朝鮮皆之を日需の食物となせりかの三代實錄によれば支那の僧湛譽といふもの一千余年前に少量の味噌を我が帝に獻せりといふ又味噌は一に高麗醬と云ふを以て之を推せばその朝鮮より輸入せしものならんか要するに其の製法は當初支那若くは朝鮮より傳へられたるものならんかと思はる然しその當時の味噌につきては今こゝに調ぶる要なければ元より現今使用せるものにつきてその大要を述べん扱て

味噌の主要原料 は一般に米或は麥食鹽及び水なり而してその種類によりては蔬菜若くは魚類等を副資料として混じ之を徐々に醗酵せしめて製せるものなり此等の中最も重要なものは荳にして多くは黃大豆の大粒種を可とし其の味を貴ぶものは青大豆を用ふ又白大豆蠶豆等をも用ふ而してその豆の種類に拘らず種粒の不揃は不可にして一般に大粒種を可とすこれ其の味小粒種より美なるに依る然れども大粒種は熟成後其の實質重量に減却を來すこと多きを以て近年製造家は小粒大豆を用ふ然れども黒大豆又は褐色大豆は熟成後色悪しき爲普通は之を用ひず麥又は米は麴となして用ふ。